

# 健康メモ

## 消毒は毒？

広島市東区医師会理事  
松野クリニック院長 松野 清

今までは先輩  
方の治療を、見  
様見まねで覚え  
るのが従来の外  
科医にとっては



当たり前で、術後や外傷後のガーゼ  
は毎日消毒して交換するものと考え  
てきました。

ガーゼを取るたびに出血や痛みを  
伴う事もあり、患者様に随分気の毒  
でした。確かに、術後は創部感染を  
確認のため、毎日の交換も必要かも  
しれません。

最近では、高血圧症、高脂血症、

糖尿病などの生活習慣病やその他の  
疾患についても、科学的根拠により  
適切な方法を見つけ出そうとする医  
療、いわゆるEvidence-based Medicine  
(EBM：科学的根拠に基づく医療)  
が普及してきました。しかし、傷の  
治療については、なにも疑わず今ま  
での方法で行ってきました。

数年前、褥瘡(床ずれ)の治療をい  
ろいろ調べていて、新しい治療法と  
して褥瘡のラップ療法を知り、湿潤  
環境での創を治す方法を知りました。  
また、外傷については、汚染されて  
ない傷では、「消毒は毒」との事で消  
毒薬は使わない、汚染創では異物を  
除去した後しっかりと洗い流すのが  
大切であると記載されていました。

私も、今では外傷はしっかりと洗浄  
後に出血が多い時にはアルギン酸カ  
ルシウムの不織布(海藻の繊維です)  
で止血し、浸出液(しる)が沢山出  
る場合にはハイドロコロイドや親水  
性ポリウレタンで吸収させ、クツシ

ョンとして防水性ポリウレタンフオ  
ームで覆うことで治すようになりま  
した。ガーゼ交換時の痛みは少なく、  
更に傷がきれいに治るのを実感して  
います。

ある医学雑誌でも「病院や家庭で  
ごく普通に行われている医療行為の  
中には、実は医学的・科学的根拠に乏  
しいもののがかなり含まれている。そ  
ういう伝承的治療の一つが傷は消毒  
してガーゼをあてる」との記載があ  
りました。

まだまだ、ヨーチンや赤チンをつけ  
てこられる方、出血したのでタバコの  
葉っぱをすり込む方、やけどでアロエ  
を塗って来られる方も来院されます。  
これからは、出血部は圧迫止血し、  
消毒液はつけずに水  
で洗ってラップで覆  
う、やけどもラップ  
してアイスノンで冷  
やして来院される事  
を期待しています。

